

事業報告書（令和4年度）

事業名 方言文化交流事業

団体名 岡山弁協会

担当者名 友谷 清志

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

方言文化交流事業「カムカム岡山弁かふえ 2022」

- (1) 日 時 令和4年9月4日（日）午後2時～午後4時15分
- (2) 場 所 旧岡山偕行社（岡山市北区いずみ町2-1-4 岡山県総合グラウンド内）
- (3) 参加対象者 岡山弁ファン、朝ドラファン
- (4) 参加人数 会場48人、オンライン5人
- (5) 内 容
 - ① 青山融と岡山弁トランプで遊ぼう!!（岡山弁協会顧問）※オンライン講座
 - ② 軽部りつこがオカリナ&フルーツ笛で奏でるカムカムミュージック（オカリナ制作&奏者）※ビデオ出演
 - ③ 「おいしゅうなれ、おいしゅうなれ」は魔法の言葉～高野暢子カムカムを語り尽くす（岡山ことば指導者）※会場講演
 - ④ 方言文化交流（質疑応答、お楽しみ抽選会等）

2. ESDの視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

参加者が岡山弁の表現やイントネーションを体感することで、岡山弁が岡山地方の生活ことばであり伝統文化のひとつであることが再認識して頂いた。参加者は、40代以上の夫婦や個人の方が主であったが、「方言を三世代で紡ぐ」というテーマを伝えることができ、次世代への方言継承に繋げることができた。

②どのように学び合いを取り入れたか

参加者は、岡山市民が主であったが、備前・備中・美作地域それぞれの方言の違いや、方言を通して生活様式を学び合えた。また、朝ドラのストーリーの中に出てくる岡山ことばについても、生活様式と結びつけて学ぶことができた。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

「岡山弁トランプで遊ぼう」では、トランプに書かれている岡山弁に音符がふってあるため、岡山弁のイントネーション（喋り方）が分からない方にも優しく伝えることができた。また、朝ドラ「カムカムエヴリバディ」の岡山ことばを指導された高野さんから、台詞としての岡山ことばの伝え方、喋り方の工夫等を伺えて、普段言葉との違いも学ぶことができた。朝ドラヒロインによって、岡山ことばの優しさが全国に広がったように思う。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

参加者構成から見ると事業テーマ「方言を三世代で紡ぐ」の成果が上がっていないと思うが、この背景にある家族とか仲間とかご近所さんとか、会場から帰ったあとの波及効果は大きかったと思う。

事後アンケートの結果を見ると、「期待以上に楽しめました」と回答した方が63.6%おられ、朝ドラをきっかけに方言としての岡山弁を再考できたことが、大きな成果と思う。デジタル新時代ということで、会場開催と併行してオンライン配信を実施したところ、参加者は少なく交流も一方通行となり、まだまだ課題が多いと感じたが、県外の参加者から「世代を超えて地域コミュニティへの愛着を育む取り組みに刺激を受けた」と、「自分たちの地域でも活かして行きたい」と言われたことが、一番の成果であったと思う。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

岡山弁ファンはシニア世代が中心であること、ましてや当協会の会員もシニア世代が中心となっており、若者世代にとって縁遠い感じとなっている。今では、SNSのめざましい進展によって、標準語ではなく流行語やカタカナ言葉、ローマ字言葉など造語・複合語が乱立する世の中になっていて、年代のギャップを感じる。

方言は、地域の文化であり伝統文化そのものであるが、デジタル新時代に突入して、方言そのものが消滅しようとしていることは、とても残念に思う。

方言は、地域コミュニティにおいて、要的な役割を持っていると思うので、当協会が方言文化の交流を広め、方言文化を伝え続けて行くことで、人と人の繋がりをつくり、元気を失いつつある地域の活力を創出して行きたいと思う。

そして、方言だけでなく「地域の伝統文化を三世代で紡ぐ」ためには、リアルな場だけでなく、Z世代にも刺さるデジタル技術を活用した施策が必要と痛感しているため、岡山地域のESDの取組と連携した持続可能な社会づくりの発展・継続に寄与して行きたい。